SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

遺跡が語る地震の歴史：仮称「長沢断層」について (地学散歩(72))

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-05-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 篠ヶ瀬, 卓二 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00024982

遺跡が語る地震の歴史：仮称「長沢断層」について

篠ヶ瀬卓二

地学散歩(72)

偶然，富士市の文化振興課の志村博さんと雑談する中で，富士市厚原280の元天間製紙跡地の遺跡調査のための試掘トレンチを掘ったところ断層がでてきたことを知った（2005.4）．直ちに現場へ向かって写真撮影をし，静岡大学理学部の林　愛明氏にもメールでお知らせして，学生を調査に向かわせてくれた．

じつは，私は前々から注目していた場所で，かつて沼津の加藤学園の方々が発掘をした沢東Ａ遺跡で遺跡の中に断層を発見しているので，その延長である可能性があるからである．今のところ，詳しいことはわからないが，断面を見る限りでは表層の土層まで切れているので非常に新しい地震活動によってできたことは理解できる．

この地域が長沢と呼ばれる地域であるから，仮に長沢断層と命名しておこうと思う．

富士市の沢東Ａ遺跡については，富士市埋蔵文化財分布地図地名表によれば次のようになっている．

所在地は久沢東・時代は古墳～奈良時代・集落跡・現場付近は工場化が進んでいる地域・主な出土遺物としては須恵器，土師器，玉類，鉄鏃，馬の歯，石製模造品その他・昭和46年に発見・竪穴式住居27軒，掘建て柱建造物跡，井戸跡，祭祀遺構などが発見されている．

沢東Ａ遺跡は，JR身延線の「入山瀬（いりやませ）駅」から南方へ600ｍほど行った場所にあり，大淵扇状地の南西端にあたり，遺跡は凡夫川と潤井川合流地点のすぐ南に位置する潤井川左岸にある．遺跡の範囲は南北600ｍ・東西500ｍにわたる地域に分布している．潤井川水系における最南端の遺跡（集落址）である．右の図は，今回発見された断層の見られる元天間製紙跡地と沢東Ａ遺跡との位置関係を表している．

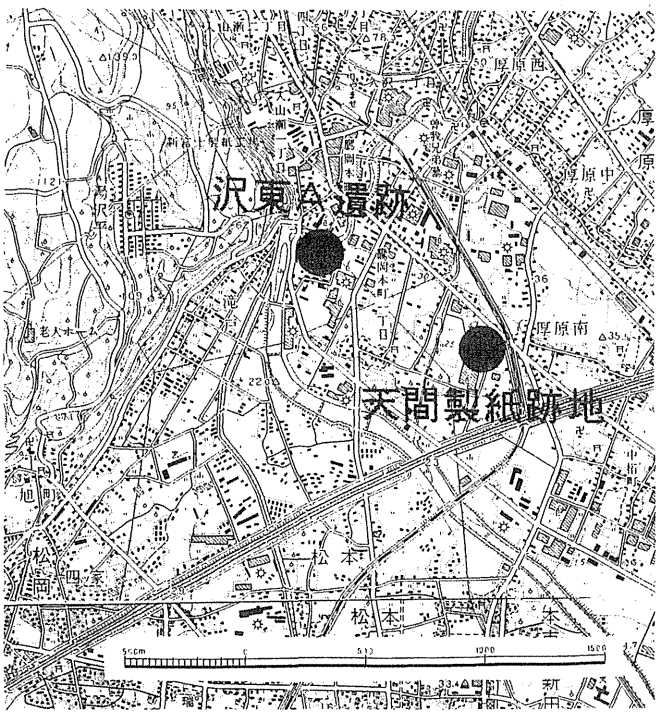


図１．沢東Ａ遺跡と天間製紙跡地との位置関係．

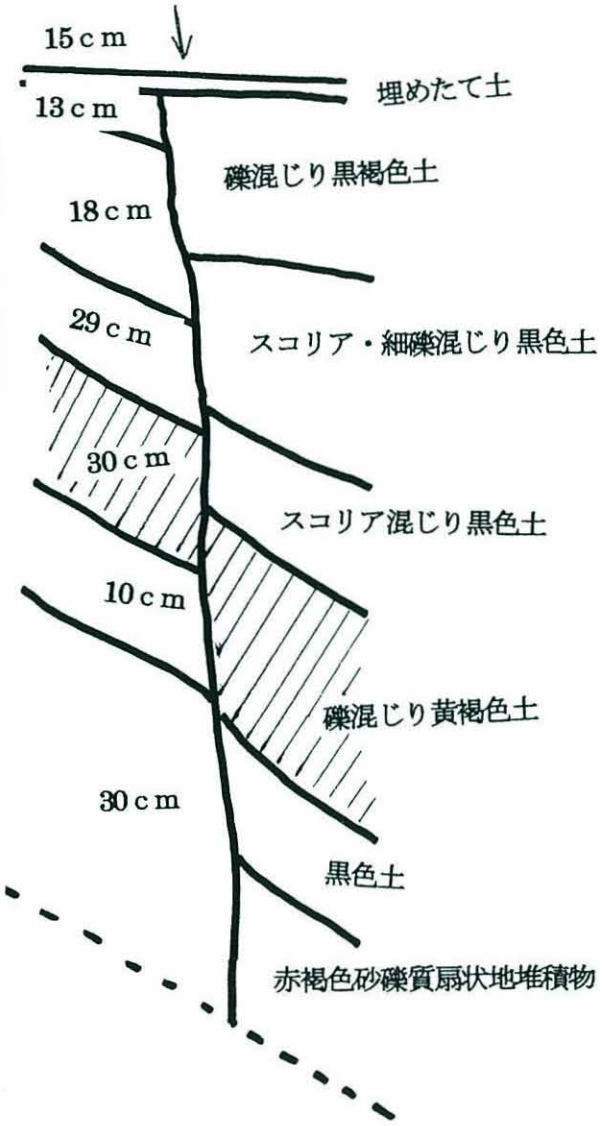
今回の断層露頭は，正断層でN75°W65°Sの走向傾斜を示していた．

先年，東につながる可能性のある東平遺跡最南端（富士市伝法3024ヤベ電気富士本店の遺跡調査実施）で安政東海地震（1854）の活動と同じ頃と予想される液状化現象に伴う噴砂が発見されている．

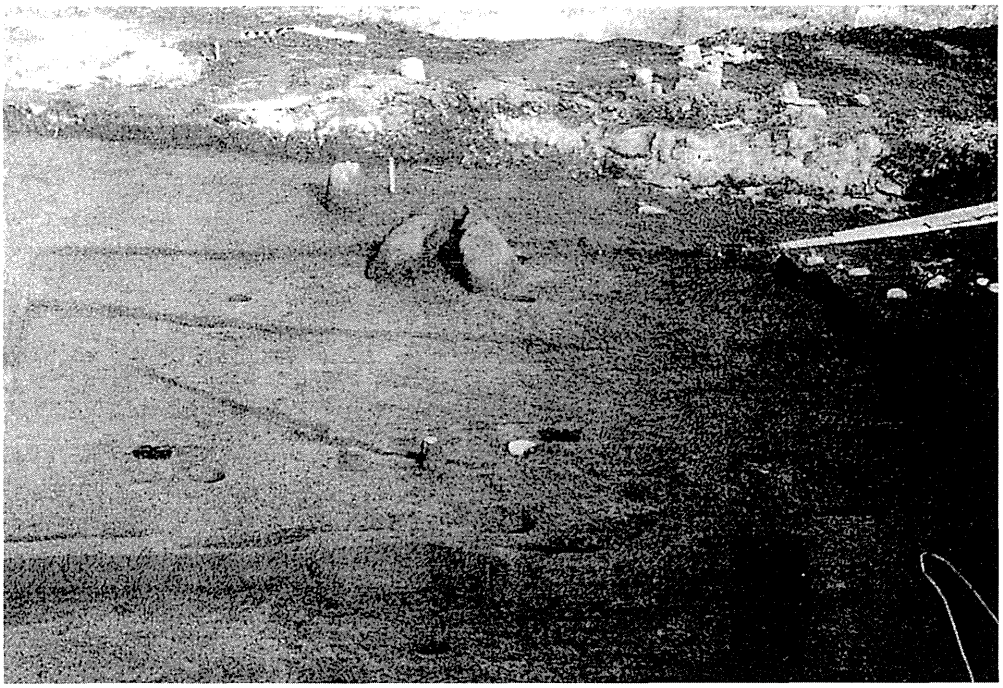
静岡大学理学部などの分析結果を待つほかは無いが，最近遺跡と地震の関係が注目されているので報告させていただいた．

なお，仮称「長沢断層」は富士市においてかなりの被害をもたらした安政東海地震の断層と共役関係にある断層が動いたとも考えられる．

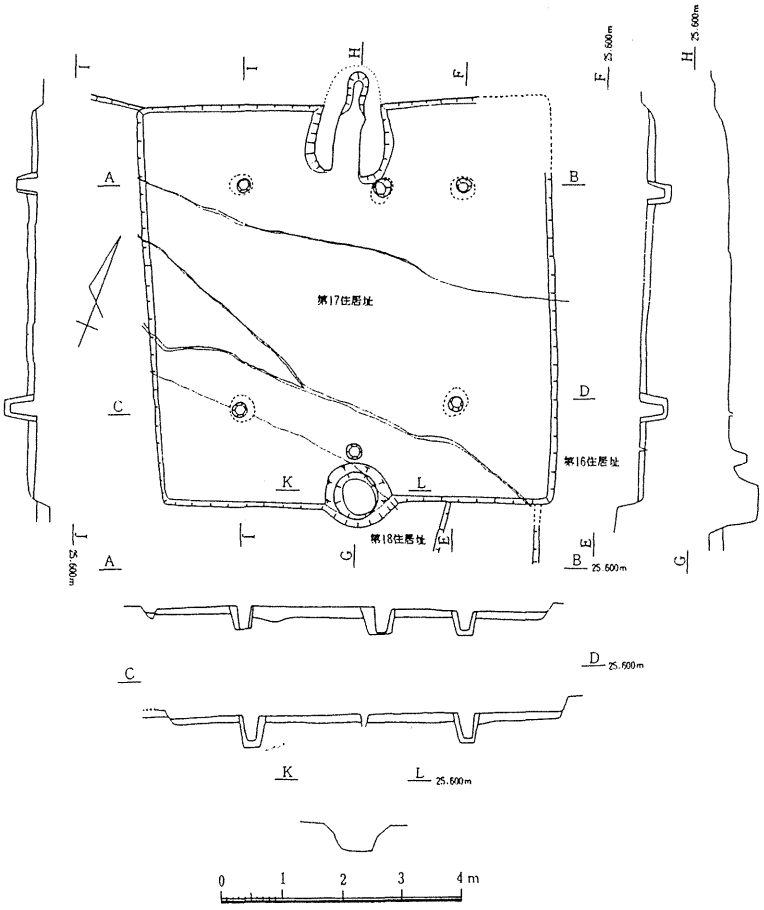
富士市中里953-27



1．元天間製紙跡地の遺跡調査試掘トレンチの断層面．
白い棒は50 cm のものさし．



2．沢東Ａ遺跡第17号住居址の南東方向からの写真．中央の東西性の亀裂が断層．富士市教育委員会の許可を得て，富士市教育委員会（1995）沢東Ａ遺跡：富士不燃建材工業株式会社工場増設に伴う埋蔵文化財第３次調査報告書，4-5，87-89より転載．



3．沢東Ａ遺跡第17号住居址の実測図．中央の東西性の亀裂が断層．富士市教育委員会の許可を得て，富士市教育委員会（1995）沢東Ａ遺跡：富士不燃建材工業株式会社工場増設に伴う埋蔵文化財第３次調査報告書，4-5，87-89より転載．